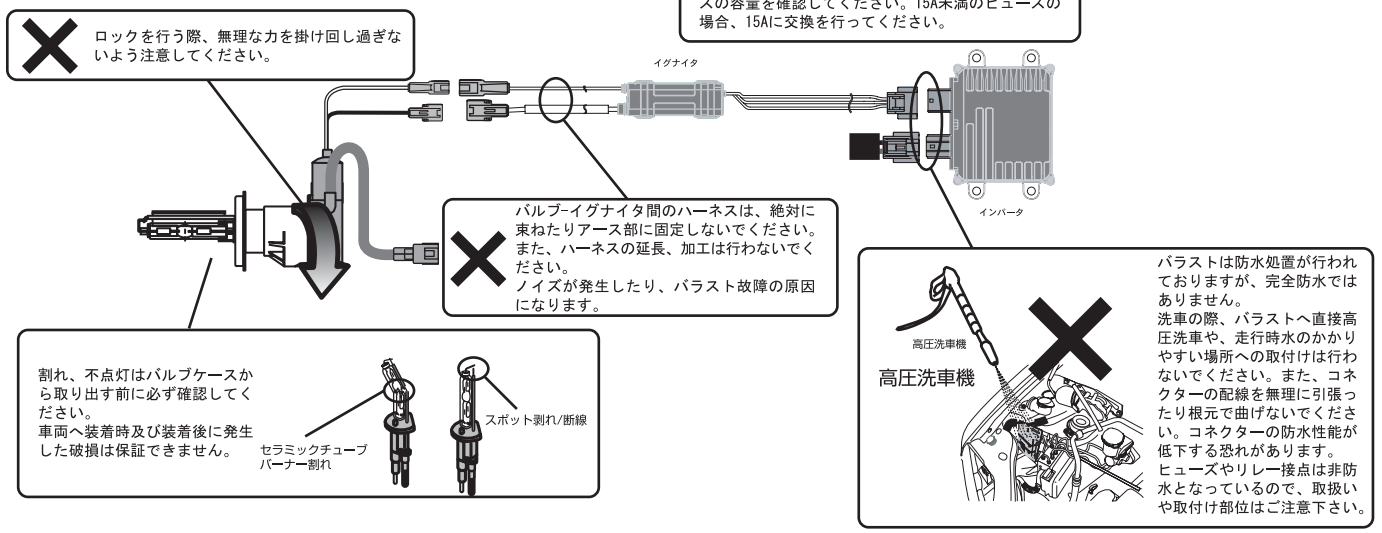
必ず、お読み下さい

12V用
Ver.3(平成22年4月改定)

以下の事項での故障は、保証対象外となります。

H4　Ｌｏｗシステムを取付けた事により、ヒューズが切れる場合があります。
その際は、配線上に問題が無いか確認の上、作業を行ってください。
また、車両側ヒューズが切れる場合は、車両のヒューズの容量を確認してください。15A未満のヒューズの場合、15Aに交換を行ってください。



点検修理に出す前に、下記のご確認をお願いいたします。

固定バルブのトラブルシューティング

原因 → 調査 → 対応

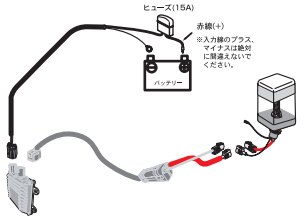
※点検方法
バラストから出ているプラス、マイナス端子をバッテリーに直接接触させて下さい。接触させると、点灯が始まりますが、およそ5分程度点灯させてください。 ※点灯の際は、ヘッドライトにバルブを固定し行って下さい。
十分に温まってから、バラスト配線のマイナス端子を付けたり、離したりを20回程繰り返して下さい。
点灯しているが、たまに「パチッ」という音と共に消灯した場合、バルブがリークしている可能性があります。購入した販売店にご相談下さい。

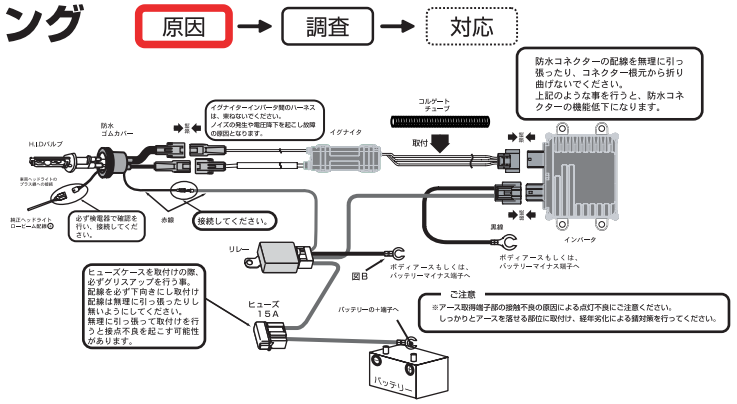
注意：バルブが冷えた状態と温まった状態とでは症状が異なる場合があります。

※バッテリー点灯チェック

図の様に、HIDシステムをバッテリーのプラス、マイナス端子へ直接接続し、点灯確認を行って下さい。この状態で点灯する様であれば、「バルブ」「バラスト」などに異常はありません。もう一度、アースの取付部変更やボディー塗装を剥がして、電通を良くするなど、検討をお願いいたします。
また、点灯時に「パチパチ」「一瞬遅れて点灯する」等の症状が見られる時も、図の要領で点灯確認をしてください。
症状が改善される時は、車両側で電圧降下を起こしていると思われます。

「バッテリー点灯チェック」





①点灯しない、突然点灯しなくなった。

- 各部のカプラーやヒューズ配線の被覆剥け、接続部を点検して下さい。
  - 被覆剥け カプラー抜け有り → ヒューズ交換及び正常にカプラーを差し込んで様子を見てください。
  - 被覆剥け カプラー抜け無し → アースポイントの腐食や塗装による接点不良など無いか確認して下さい。
    - 腐食していた → アースポイントを腐食しにくい場所へ移すか、塗装を剥がして、グリスアップなどをし様子を見てください。
    - 腐食していない → 左右の4極リレーの端子部に腐食や接点不良が無いか確認して下さい。必要に応じて、左右の入替えなどを行って下さい。
      - 腐食していた → リレーを交換し、固定場所を変更してください。
      - 腐食、接点不良なし → アースポイントの端子やボルト、ワッシャーがステンレス等の抵抗値が高い材質で出来ているかテスターで確認して下さい。
        - 抵抗値が高い → 抵抗値の高い材質で出来たボルト、ワッシャー等により電圧降下が起きたと思われます。取付部位を変更するか、抵抗値の無い、鉄製材質に変更して、様子を見てください。
        - 抵抗値が低 → バラストを取付けた場所の近くにCPU等のBOXがあれば少し離した部位に取付けて下さい。
          - 点灯した → CPUから発信されている電磁波(ノイズ)等で、バラストが障害を受けていた様です。このまま様子を見てください。
          - 点灯しない → 車両からバルブ、バラストを全て外し、※バッテリーチェックを行って下さい。
            - 点灯した → 電圧低下もしくは過電流の可能性があります。また、バッテリーの耐用年数を過ぎているものは交換して下さい。
            - 点灯しない（チカチカする） → バラストまたは、バルブの不具合があります。左右のパーツを組み替えて不具合品の判別し、販売店を通して修理に出して下さい。

②バルブがチカチカする

- バッテリーが弱っていると HIDを起動させる電力供給が出来ません。
  - バッテリーが弱っていた → バッテリーを新品と交換もしくは容量を上げてご使用下さい。
  - バッテリーは正常 → ①のケース手順で点検をお願いいたします。

③バラスト側のヒューズが切れる

- バラスト側の端子及び配線（被覆剥け）が車両に接触していないかを確認して下さい。
  - 点灯した → 接触不良による不点灯と思われます。不具合部位の処置を行い、このまま様子を見て下さい。
  - 点灯しない → インバータ側に水などが浸入して、抵抗値が上がっている可能性があります。
    - 異常あり → 焦げた臭いなどがあればインバータ基盤がショートした可能性があります。一度購入された販売店を通して点検を依頼して下さい。
    - 異常無し → ①のケース手順で点検をお願いいたします。

④車両側のヒューズが切れる

※H4Ｌｏ固定の場合、HIDを装着したことにより電流が多く流れている可能性があります。(過電流)右記状態でない場合は、ヒューズの容量アップをさせて対応して下さい。
例　純正10A　⇒　15Aに変更など

また、バルブは使用していくと発光部の電極が磨耗していき、バラスト側に要求する電流値が高くなる特性があります。この場合、取付当初から使用期間経過に伴い、ヒューズ容量が足らなくなる事があります。

- バラスト側の端子及び配線（被覆剥け）が車両に接触していないかを確認して下さい。
  - 点灯した → 接触不良による不点灯と思われます。不具合部位の処置を行い、このまま様子を見て下さい。
  - 点灯しない → インバータ側に水などが浸入して、抵抗値が上がっている可能性があります。
    - 異常あり → 焦げた臭いなどあれば、インバータ基盤がショートした能性があります。一度購入された販売店を通して点検を依頼して下さい。
    - 異常無し → ①のケース手順で点検をお願いいたします。

切替式バルブのトラブルシューティング

⑤点灯しない、突然点灯しなくなった

- ①のケース手順で点検をお願いいたします。
  - 点灯した → そのままご使用頂き、様子を見て下さい。
  - 点灯しない → バッテリープラス端子への接点確認、及びヒューズ切れを確認して下さい。
    - 点灯した → 取付方法や接点方法を見直し、そのまま様子を見て下さい。
    - 点灯しない → 左右の4極リレーの端子部に腐食や接点不良が無いか確認して下さい。必要に応じて、左右の入替えなどを行って下さい。
      - 点灯した → リレー自体は防水処理されていますが、接点部分は非防水です。リレー端子部を清掃、必要があれば交換していただき、なるべく雨水やクーラントなどの掛からない部位へ取付下さい。
      - 点灯しない → コントロールユニットの接合部、配線の確認して下さい。
        - 点灯した → 接続部コネクターの清掃、配線処理の方法をやり直してください。ひどい様であれば、交換していただき、取付け、配線の引き回しを見直してください。
        - 点灯しない → HIDシステム全体を確認する必要があります。一度、購入された販売店を通して検査を依頼して下さい。

⑥HI/LOが切り替わらない

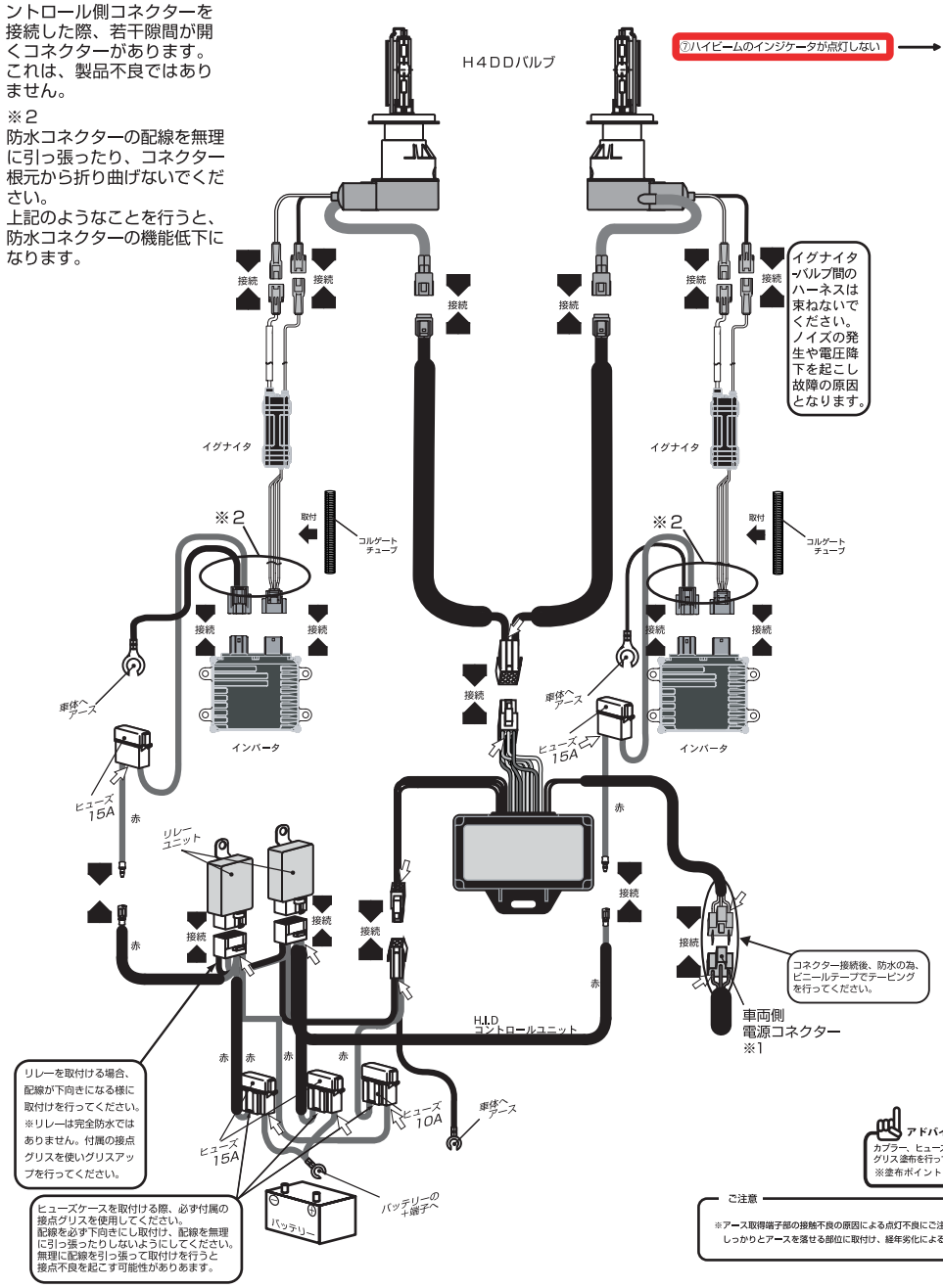
- コントロールユニットから出ている4極、9極カプラーの抜き差しを行ってください。
  - 切り替わらない/切り切り替わるようになった → カプラー内の端子が腐蝕している可能性があります。 防水、防腐処理を行ってください。
- 左右の4極リレーの端子部に腐食や接点不良が無いか確認をして下さい。必要に応じて、左右入替えなどを行って下さい。
  - 切り替わるようになった → リレー自体は防水処理されていますが、接点部分は非防水です。リレー端子部を清掃、必要があれば交換していただき、なるべく雨水やクーラントなどの掛からない部位へ取付下さい。
- バッテリー端子のプラスへ接続している配線を確認して下さい。（HI/LO切替を司る電源端子になります）
  - 切り替わるようになった → バッテリーへのプラス端子の接続が悪いと、HIDシステム全体がダウンすることもあります。確実な取付を行って下さい。
- バルブを取外してフリーな状態でHI/LO確認をして下さい。バルブ内部のソレノイドが動こうとしているか確認して下さい。
  - 動こうとしている → ソレノイドは動こうとしていますが、何処かで引っ掛かっているようです。セラミックチューブ折れなど無いか確認のうえ、購入された販売店へ検査を依頼して下さい。
  - 動かない → HIDシステム全体を確認する必要があります。一度、購入された販売店を通じて検査を依頼して下さい。

⑦ハイビームのインジケータが点灯しない

- 車両によってハイビームを認識する機構が異なります。
  - トヨタ、ダイハツ車以外 → 仮に点灯しない場合、対応出来ない場合があります。一度、購入された販売店へご相談下さい。
  - トヨタ、ダイハツ車 → トヨタ、ダイハツ車はハイビーム点灯時に微量な電流をロー側に流し、それがフィラメントを通じて返ってきた時にハイビームと認識させている車両が一部あります。

    コントロールユニット内部に擬似的なローフィラメントを作り出し、ハイビームインジケータを正常点灯させる機能を内蔵させています。。

    ※車両側センサーの感度により必要無い場合や、稀に正常起動出来ない場合があります。

※1
車両側電源コネクターとコントロール側コネクターを接続した際、若干隙間が開くコネクターがあります。これは、製品不良ではありません。

※2
防水コネクターの配線を無理に引っ張ったり、コネクター根元から折り曲げないでください。
上記のようなことを行うと、防水コネクターの機能低下になります。